



6-8

蜃気楼

ここ30年来の調査で、琵琶湖の北湖や南湖で多彩な上位蜃気楼が現れることが明らかにされました。琵琶湖の蜃気楼がテレビや新聞で取り上げられることも増えています。観光資源でもある蜃気楼を解説します。

1. 蜃気楼(mirage)とは

蜃気楼は、水平線付近で見られる光学現象です。湖上の気温や気圧の変化で光が屈折して、対象物が歪んで見える像のことを言います。通常、双眼鏡や望遠レンズを用いて観察します。蜃気楼は、大きく下位蜃気楼と上位蜃気楼に分類されます。蜃気楼変化がない通常の景色は実景と呼ばれます。

2. 下位蜃気楼(inferior mirage)と上位蜃気楼(superior mirage)

下位蜃気楼は、湖面付近の空気の気温が暖かく、上へ行くと気温が低くなる(上冷下暖)時に現れます。1年を通じてよく見られる蜃気楼で珍しくなく、上下が反転する形が特徴です。浮島現象もこの類です。上位蜃気楼は、湖面上に気温が急に高くなる層(温度境界層)が形成される(上暖下冷)時に見られます。琵琶湖では春先(3月)から初夏(6月)にかけてと秋(11月)の天気の良い穏やかな日に見られる多彩な変化をする珍しい蜃気楼です。

3. なぎさ公園(大津市浜大津)から眺める琵琶湖大橋の蜃気楼



写真6-8-1 琵琶湖大橋の上位蜃気楼・実景・下位蜃気楼 富田正三氏提供

琵琶湖地域環境教育研究会、琵琶湖蜃気楼研究会 松井 一幸